

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年 10月 9日

【評価実施概要】

事業所番号	2271100824
法人名	株式会社メデカジャパン
事業所名	沼津ケアセンターそよ風
所在地 (電話番号)	静岡県沼津市中澤田字中澤 391-1 (055-929-0165)

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成20年8月16日

【情報提供票より】(平成20年7月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 9 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	23 人	常勤 19人, 非常勤 4人, 常勤換算	14.98人

(2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	35,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,340 円			

(4) 利用者の概要(平成20年7月31日現在)

利用者人数	27 名	男性	6 名	女性	21 名
要介護1	7 名	要介護2	9 名		
要介護3	7 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 85.0 歳	最低	71 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	永野医院 ・ 大嶽歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人は約145箇所の福祉関係等施設を全国展開しており、95のグループホームを運営している。静岡県には三島と沼津に「ケアセンターそよ風」があり、ここ沼津は併設デイサービスと三つのユニットで構成されている。統一理念として「感動介護」を掲げ、沼津独自の理念も定め、管理者・職員が一丸となって「笑顔」・「挨拶」を実践し、利用者本位の支援を行っている。自己評価票作成には全職員で取り組み、運営推進会議も着実に開催され、地域密着型に相応しい運営が行われている。「そよ風便り」もユニット毎に作成され、家族からも喜ばれている。利用者の高齢化・重度化に備えたターミナル指針やマニュアル作りが今後の課題である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>昨年の指摘事項は、殆ど改善されていた。終末期対応と玄關鍵の施設対策に検討・工夫が求められる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価票作成においては、全職員で行い、三つのユニットの特徴が表されていた。管理者・職員は、評価の意義を良く理解しており、改善への積極的な取り組み姿勢が窺える。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では、ホームの行事・入退去・日常の現状報告と共に、地域行事やホーム行事への相互参加・避難訓練の課題も話し合わせ、家族も参加して2ヶ月に1回着実に開催されている。行政や地域との連携も良く、包括支援センターの提唱する「地域元気アップ教室」を、日曜日に併設のデイサービスルームで開催しては?等の前向きな検討もされ、ホームの運営に活かしている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>苦情・相談窓口が重要事項説明書に明記されており、何時でも耳を傾ける体制に在る。電話・来訪・家族会・運営推進会議等で出されたご意見は、誠意を持って対応し、運営に反映させている。三つのユニット夫々の「そよ風便り」があり、豊富な写真付のその月の全体活動状況と共に、一人ひとりのお便りも添えられている。状態変化時は、電話や面会時に説明し、家族からも喜ばれている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域行事への参加は積極的にいき、地域住民との交流に努めている。自治会に加入し、回覧版を回していただき行事への招待を受けたり、ホームの「そよ風便り」や行事計画を載せてもらい、相互参加が行われている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体として基本理念・基本方針・品質方針が定められており、ホーム独自の理念として「・・・いつも笑顔・・・」、「・・・元気な挨拶・・・」を掲げて感動介護を目指している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は各所に掲示され、毎日唱和して理念の実践に取り組んでいる。基本理念・基本方針を毎日一項目ずつ曜日を決めて実行目標として定め、利用者本位の支援に努力している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、回覧版を回していただき行事への招待を受けたり、ホームの「そよ風便り」や行事計画を載せてもらっている。ボランティア等の受け入れもあり、地域行事にも積極的に参加し、地域住民との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員は、評価の意義を良く理解している。今回の自己評価票作成においては、全職員で行い、三つのユニットの特徴が表されていた。昨年の指摘事項や今回明らかになった課題についても、全体会議やフロア会議で取り上げ、改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月に1回着実に開催されている。ホームの行事・入退去・日常の現状報告と共に、地域行事やホーム行事への相互参加・避難訓練の課題も話し合われている。包括支援センターの提唱する「地域元気アップ教室」を、日曜日に併設のデイサービスルームで開催しては？等の前向きな検討もされ、ホームの運営に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日常の報告の折に、こまめに相談すると共に、市のグループホーム連絡協議会・研修委員会・ケアマネジャー計画作成担当者講習会等にも参加し、共にサービスの質向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	三つのユニット夫々の「そよ風便り」があり、豊富な写真付のその月の全体活動状況と共に、一人ひとりのお便りも添えられている。状態変化時は、TELや面会時に説明し、家族からも喜ばれている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情・相談窓口が明記されており、何時でも耳を傾ける体制に在る。電話・来訪・家族会・運営推進会議等で出されてご意見は、誠意を持って対応し、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や退職を少なくするよう、最大限の努力をしている。職員の活性化やスキルアップのために、3ユニットの異動や合同行事を行ない、利用者のダメージを少なくする努力も行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	多様な利用者の状況に対応するため、3ユニット合同行事や職員のローテーションを行いながらのOJT(仕事を通じての訓練)や、職員のレベル・経験に応じた社内外の研修機会を設けている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会・研修委員会等に参加し、同業者との交流や情報交換を行い、そこで学んだことをサービスの質向上に役立てている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設のデイサービスからの受け入れはスムーズに行われているが、空室状況で急な入居の場合等の工夫が必要である。	○	止むを得ない状況もあるが、事前の自宅訪問・事前アセスメントの共有化・お茶のみ食事のみの事前体験等、家族とも相談し少しでも馴染みながらの利用ができるよう工夫されたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	理念に謳われているように、利用者を「介護を受ける人」ではなく、「共に生活する人」として受け止め、経験豊かな利用者に学ぶ姿勢が全ての職員ヒアリングの中でも覗かれた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月のアセスメントやカンファレンスで職員の気付きを共有し、日々のかかわりの中で声を掛け、把握に努めている。言葉や表情などからその真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしている。意思疎通が困難な方には、ご家族や関係者から情報を得るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族からの要望を基に、毎月のフロア会議にて職員の意見や気づき、介護記録から課題をあげ、ケアマネジャー・看護師の意見も加味して介護計画を作成している。家族にも介護計画の説明と同意を得て、個人別のカードデックスにまとめて全職員での共有化を図っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に援助目標の評価による見直しを基本に、状況変化に応じて随時のカンファレンスを行い、ケアマネジャーや医者、家族とも話し合い現状に即した介護計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて、通院や送迎等の支援と併せ、併設デイサービスのレクリエーションや行事への参加、他ユニットへの行き来などで、他の利用者との交流を図るなどの工夫を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等と話し合い、かかりつけ医の継続やホーム提携医療機関への移行など、適切な医療が受けられるように支援している。提携医による月一度の往診や看護師職員による看護なども日常的に行なわれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合、本人・家族の希望や医師のアドバイスを基にサービス担当者会議で対応を話し合いホームでできる支援を行っているが、基本方針やマニュアルなどの整備までには至っていない。	○	重度化した場合に備え、終末期のあり方についてホームとしての基本指針の確立やマニュアルを作成し、入居契約時から本人や家族の希望を確認し同意書をいただくなど、全職員で終末期対応を共有する仕組み作りが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの人格を尊重して敬意を持った言葉掛けに留意しており、お互いに気づいたときは声を掛けあって注意している。個人記録表なども閲覧できないよう配慮し一定の場所に保管し注意を払っている。	○	面会受付簿がノート形式になっていたため、来訪者や利用者の個人情報保護の観点から個別記入となる工夫が望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームや職員側の優先とならないよう気をつけ、職員が全体の一日のリズムを作りながら本人の意向を否定せず、入浴対応や食事から排泄まで、利用者一人ひとりのペースに合わせた支援が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のメニューは本社管理栄養士によるものを基本に、利用者の希望も取り入れながら決めるようにしている。また、調理、盛り付け、片付け等も利用者と共に、職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事できるよう雰囲気づくりも大切にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者のその日の希望を聞き、一人ひとりの希望やタイミングに合わせた入浴支援が行われている。声掛けの工夫や職員の交代・歌や会話をしたりして入浴支援を行っている。日曜日を利用して併設デイサービスの温泉大浴場の利用も計画中である。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	アセスメントや日常生活の対話の中から、その方の得意なことや趣味を把握し、活躍の場を提供している。編み物、折り紙、歌、お琴、季節の飾りつけなど楽しみごとややる気を引き出す演出を工夫している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や、本人の気分、希望に応じて、いろいろなコースへ散歩に出たり食材などの買い物同行、ホーム玄関周りでの外気浴など戸外へ出る機会作りを工夫している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や共有空間・各ユニット間については常時開放されているが、玄関が職員の死角となる建物の構造上の問題から、安全対策として玄関入り口のみ施錠している。	○	建物の構造上や近隣住民の通路になっている等の難しい点はあるが、面会者や見学者は玄関より訪問するため、閉鎖された施設のイメージを持たれる可能性がある。管理者、職員が意見を出し合い、施錠しない玄関を目指し、工夫・努力する事が望まれる。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけをしている	年2回の定期的な避難訓練と夜間想定訓練を実施している。非常用備品の準備も出来ており、地域防災訓練への参加も行っている。地域の協力が得られるよう回覧板や挨拶に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士による献立作りで、栄養バランス・カロリー計算が図られ、毎食の摂取量や一日を通しての水分摂取量をバイタル表に記録し、日々の栄養管理支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間はゆったりと落ち着いており、居間には利用者と職員で一緒に作った季節感のある展示物などが飾られていた。毎月のそよ風便りや手作りカレンダー、季節の花も飾られ、オープンキッチンでの食事の支度やにおいなども伝わり、心地良い生活感・季節感が感じられた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅で使用していたものを持参していただくよう家族にお願いしており、居室によって、家具、テレビ、仏壇、位牌、写真などが持ち込まれ、居心地良く過ごせる工夫がなされている。		